

燕岳(つばくろだけ)登山



風に吹かれて ～燕岳登山プログラム～ 登山隊隊長 杉本 増生

松本駅前のスーパーマーケットで、登山の行動食や宿での間食などを選んでいいる時です。「皆さァん、どれがいいですか？これがいいかな・・・あれもいいなァ。何でも好きなものを選んでくださいよ。ええッ、スイカ！ううん・・・〇〇さん、スイカはやめておきましょうよ。年寄のぼく(松原隊員)には担げませェん」

ゲストさん三人とスタッフあわせて六人が、上半身ほどのザックを担いで、狭い陳列棚のあいだを賑やかに右往左往・・・。「あのオ・・・失礼ですが・・・」籠から葱の葉先をのぞかせて、年配のご婦人が、スタッフの牧野隊員に話しかける。「福祉の方たちで、いらっしゃいますか？」牧野隊員が、戸惑いながらうなずいています。「そうですの・・・皆さん、とっても楽しそうになさっていらっしゃるものですから、つい・・・。ご免なさいまし、お邪魔して・・・ツバクロ岳なら、あたくしも、中学校の課外授業で登りましたことよ。皆さん、いい山登りを、楽しんでいらっしゃいませ」笑顔で会釈して、離れて行かれる。「嬉しいですね。ぼくたちを、こんなふうにご好意のまなざしで見ている下さるなんて」松原隊員の、アンパンをつぶしたような笑顔。

～山の玄関口、信州松本の街で、見知らぬご婦人に祝福されて、登山プログラムは始まりました。

燕岳のふもとの有明荘で宿泊して、翌日、登山開始。残念ながら、雨中の登高となりました。荷の重さと、急坂の連続で、雨具の下は蒸し蒸しと汗だらけ。その不快さと疲労に耐えること七時間、ようやく、今宵の宿、燕山荘に登り着きました。いつもは元気に声をあげるゲストさんも、小屋前の石段に座り込んで、ぐったりです。

七時間といえば、日帰りガイドヘルプの所要時間にあたります。平地なら、喫茶店あり冷房の効いた建物あり・・・快適で、こんなに疲れない。それなのに、スタッフもゲストさんも、このしんどさを承知で登山プログラムに取り組むのは、このあとの小屋での食事や語らいの楽しさ、晴れた時の景色の素晴らしさ、仲間みんなを同等に吹く山の風の爽やかさ・・・そんなこんな、山の魅力を知っているからに違いありません。

消灯九時。昨夜は、入山初日の興奮で、ゲストさんそれぞれの持味を發揮して、なかなか寝付かれませんでした。さすがに今日は、スタッフともども速やかに就眠。六人、枕を並べて、穏やかな寝息や道路工事ふう鼾を個室に響かせたことでした。

翌朝は、期待通りの快晴です。食事のあと、空身で、身も軽く、目の前に聳える燕岳(標高二七六三m)を往復。狭い頂上をしぼし六人で占領して、雄大な景色を眺め、高山の風に吹かれながら、写真撮影に興じる。昨日は雨で出番のなかった撮影担当、牧野隊員の大活躍です。

「牧野さァん、無理して、岩から落っこちないでよォ。怪我でもされたら、奥様と六か月の坊ちゃんに怒られるのは、ぼくだからねェ」松原隊員が心配するのもかまわず、帰り道では、岩場をあちこちと跳び移って撮影に余念がありません。

燕山荘に戻り、荷を担いで下山開始。雨中の登高とは打って違って、快晴下の軽快な下降です。昨日の登高時には足の遅かったゲストさんも、スタッフから歩き方をいろいろと教えられた甲斐があって、見違えるほどの足運び、後続者を引き離すほどです。

「〇〇さん、すごいなあ・・・やれば、できるじゃん！」スタッフ三人に関心されて、えへん、どんなもんじゃい、とばかりのゲストさんの、にんまり顔。こういう成果を目のあたりにできるのは、スタッフ一同の大きな喜びです。下山して、有明荘で昼食。そして、バスの時間まで、ゆっくりと露天風呂に浸かる。

樹々の緑。 青い空。 きらめく湯面。
今回参加したゲストさんは、筋肉質の肢体を湯に沈めて満足そうです。
太鼓腹。 あばら骨。 中肉中背。
それぞれの裸を、山からの風が吹いては過ぎて行きます。……



前穂通信

まえほつうしん

発行日	2012年10月1日
発行元	自立センター前穂 〒569-1022 高槻市日吉台 1番町21-18 072-689-8600



- 9月中旬に、二泊三日の行程でアルプスへの登山活動をさせて頂きました。
- ご要望を頂いたゲストは男性三人の方。(通年に渡り、登山訓練をして頂いております。また、個人装備も高山に耐えうる物を揃えて頂いております。)
- ガイドヘルパーは杉本パートナーと牧野祐典スタッフ、松原史弦スタッフです。
- 宿泊を伴う移動支援活動のため、事前に障害福祉課に計画書も提出し、了解を頂いております。
- 今後も、ご要望がありましたらハイキングから、こうした本格登山まで取り組んで参りたいと存じます。